
日本村落研究学会 研究通信

(No.276 2026.6.8)

JARS (Japanese Association for Rural Studies)

Newsletter (No.276, June 8, 2026)

(事務局)坂本清彦(総務担当)・岩橋涼(会計担当)・本田恭子(Web 担当)

連絡先: 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

龍谷大学 社会学部 総合社会学科 坂本清彦研究室内

TEL: 075-585-6928 E-Mail: sonkenjimu2026(at)gmail.com

郵便振替口座: 00150-9-387521 日本村落研究学会

ホームページ・アドレス: <https://jars.smooosy.atlas.jp/ja>

目次

I. 理事会報告	1
II. 第 74 回(2026 年度)大会の案内	5
III. 第 74 回(2026 年度)大会 自由報告の募集について	7
IV. 地区研究会開催案内・開催報告	8
V. 『年報』の「研究動向」について	9
VI. 学会費納入のお願い・院生会員会費適用延長の申請について	10
○令和 6 年能登半島地震において被災された会員のみなさまへ	11

ニュース、募集・お願い、研究会のお知らせなど(締め切り他詳細は、記事をお読みください)

○第 74 回(2026 年度)大会の日時場所(於:東京農業大学 2026 年 12 月 4 日(金)~6 日(日))

○第 74 回大会自由報告の募集(締切:タイトル報告者等 7 月 24 日、報告要旨 8 月 18 日)

○第 74 回大会初日の「日韓ワークショップ」について(於:東京農業大学 2026 年 12 月 4 日(金))

○『年報』の「研究動向」について

○学会費納入のお願い・院生会員会費適用延長の申請(締切 2026 年 6 月 30 日)について

○能登半島地震にともなう学会費の減免措置

※「研究通信」の書式・体裁を変更しました。

編集作業の効率化、電子版(PDF)での可読性・利便性向上のため、今号から「研究通信」のフォントやページ設定等を変更しました。上の「目次」は各項目見出しへのリンクになっていますので、PDF 版で読む際にご活用ください。

I. 理事会報告

【第 3 回理事会(2026 年度)】

日時: 2026 年 4 月 13 日(月)15:00-18:30

場所: オンライン

出席：足立重和、市田知子、岩橋涼、川田美紀、坂本清彦、佐久間政広、澤野久美、轟理恵子、
林琢也、原山浩介、平井勇介、福田恵、山内太、山下亜紀子（氏名五十音順）
欠席：坂梨健太、本田恭子、牧野修也、矢野晋吾、渡邊悟史（氏名五十音順）

1. 会員異動(事務局)

○入会：4名(敬称略)

氏名	会員種別	勤務先・在学先名	紹介者
張威	大学院生会員	立教大学	渡邊悟史
ヒディング・アドリアナ	正会員	愛媛大学	飯田悠哉
余楽	大学院生会員	お茶の水女子大学	田村萌
小島明子	正会員	(株)日本総合研究所	高橋健太郎

○退会：7名(敬称略、退会届提出順)

越智正樹、林在圭、岩本由輝、楊非凡、菊池隆聖、梶谷一夫、熊谷苑子

2. 各種委員会報告

(1) 研究委員会・年報編集委員会

1) 報告事項

①本年度大会のテーマセッションについては、佐久間政広会員(コーディネーター)から、「村落研究におけるモノグラフの可能性」(仮題)を共通テーマに、村田周祐会員、平井勇介会員、武田俊輔会員、今里悟之会員を報告者として、伊藤勇会員をコメンテーターとして、準備を進めていると報告があった。

②2027年度(第75回)大会テーマセッションは、芦田裕介会員をコーディネーターとして『『インフラ』から考える農村社会と村落研究の再編』(仮題)をテーマに準備を進めていくこととした。

(山下亜紀子)

2) 日韓ワークショップについて

第74回(2026年度)大会の一環として、韓国農村社会学会と本学会との合同研究会(日韓ワークショップ)が企画され、研究委員会と国際交流委員会で準備を進めています。第3回理事会において、詳細に検討を行い、下記のことが決定しました。詳細が決まりましたら、次号にて、お伝えいたします。

①開催日時・場所について

- ・開催期日：12月4日(金)午後
- ・会場：東京農業大学国際センター榎本ホール

②仮テーマ：人口減少時代における農山村地域の課題と対応

③本学会側からの登壇者

- 高村竜平会員(日本における農村地域の人口減少問題などについて)
- 望月美希会員(日本における災害と農村について)

④参加費：無料

(山下亜紀子)

3)2026 年度大会について

大会日程案、参加費、運営費の原案について大会実行委員会から提案し、細かい確認事項を残し概ね了承された。

(原珠里)

4)2027 年度大会テーマセッションについて

2027 年度(第 75 回)大会テーマセッションは、芦田裕介会員をコーディネーターとして、準備を進めていると報告があった

(3)年報編集委員会

『年報 村落社会研究』第 62 集は、テーマセッションに関する査読用原稿がすべて提出され、現時点ではスケジュール通りに進捗していることが報告された。研究動向のあり方については、別途項目を立てて報告をする。

(澤野久美)

(4)村研ジャーナル編集委員会

2026 年 5 月下旬公開予定の村落社会研究ジャーナル 64 号は、論文 1 本、特別寄稿(佐藤康行会員)、年報 60 集合評企画、特集【研究会】「フードスタディーズと村落研究」、書評 5 本、学会賞記事を掲載予定と報告があった。また、査読体制の再構築の進捗状況についても簡単な報告があった。

(平井勇介)

(5)国際交流委員会

報告なし

(6)学会研究奨励賞選考委員会

2026 年 2 月 22 日発行「研究通信 No.265」および学会 HP において、2026 年度「日本村落研究学会研究奨励賞」の推薦を会員の皆様に 2026 年 5 月 31 日締切でお願いしたところ、今年度の学会賞について推薦が 1 件ありました。学会賞選考委員会にて検討を開始します。

(市田知子)

3. その他委員会報告

(1)事務局

【審議事項】

1)村落研究通信の書式体裁等の変更について

村落研究通信について可読性および編集の利便性向上のために書式体裁等を変更したいとの提案があり、反対意見は出されなかった。

2)学生アシスタントへの謝金支出について

事務局に引き継がれている過去資料・データの整理等の作業のために学生アルバイトを雇用し、その謝金を支出したいとの申し出があった。金額については、1 人 2 万円、2 名で合計 4 万円の支出ということで、反対意見は出されなかった。

【協議事項】

3) 事務局長保管の過去の資料整理について

事務局長が引き継いでいる過去のジャーナル、通信その他の資料類を整理する方針であること、その前段として現在引き継がれている資料一覧を作成する方針である旨の説明があった。

4) 名簿作成の必要性について

名簿作成(次回予定は2027年度)の必要性について、前事務局から検討するよう引き継ぎがなされており、今後理事に意見を募る方針であること、また次の理事会で作るかどうかが決めていく必要があるとの説明があった。

5) 事務局ウェブ担当の会則への記載について

事務局ウェブ担当が理事に名前を連ねているにも関わらず会則に記載されていない現状をふまえ、大会総会で会則に位置づける方向で進めたいとの説明があった。

6) 第5回理事会日程について

今後の理事会について、第4回は8月31日に開催することが決定済みで、第5回は例年通りなら大会直前の水曜日(12月2日)の夜に開催となるが、時間は相談して決定することとなった。

【報告事項】

7) 院生会費適用延長申請手続きについて

今年度から始まる院生会費適用延長申請手続きについて、申請フォームと、申請者が提出する誓約書等の見本が示され、申請手続きの概要が説明された。

8) 社会学系コンソーシアム第18回評議会(1/24)・社会学系コンソーシアムシンポジウム(3/8)

社会学系コンソーシアム第18回評議会が1月24日に、社会学系コンソーシアムシンポジウムが3月8日に開催され、評議会には靄会長と坂本事務局長が参加したことが報告された。

9) 活動補助費について

活動補助費の振り込みのため、各委員会や地区研究会担当者は会計担当の岩橋まで連絡してほしいとの案内があった。

(坂本清彦・岩橋涼)

(2) 「むら研究会」基金管理委員会

報告事項は以下の3点である。

1) 「むら研究会」基金若手研究活動補助申請結果の報告(2025年12月末締切)

若手研究者の学会に係る研究会合参加に要する経費として、2名計4件の申請があり採択された。支給合計金額は20,000円で、内訳は村研大会参加に要する経費2件で計14,000円、研究会への参加に要する経費2件で計6,000円であった。その他の研究活動(若手主体の研究会等)は、12月に1件申請があり採択された。支給合計金額は28,442円である。よって、支給後の残額は447,954円となっている。

2) 2026年3月15日締切の「むら研究会」基金若手研究活動補助申請について

申請件数は0件であった。

3) 次回の「むら研究会」基金若手研究活動補助申請について

締切は2026年7月31日とする。

(岩橋涼・靄理恵子)

(3)GEAHSS

GEAHSS 主催のシンポジウム「アーリーキャリアの声から—アカデミアのジェンダー平等を再構築する」が2026年2月に開催された(村研会員へは事務局からメールにて事前に案内済み)。

GEAHSS 第9期第1回運営委員会が2026年3月に開催された。

(川田美紀)

II. 第74回(2026年度)大会の案内

第74回(2026年度)の日本村落研究学会大会は、12月4日(金)「日韓ワークショップ」、5日(土)自由報告・総会・懇親会、6日(日)テーマセッションの日程で、東京農業大学(世田谷キャンパス)で開催します。

【開催地について】

今回の大会は、首都圏開催となりますので、多くの会員の皆さまと会場でお会いできることを心待ちにしております。エクスカッション、地域セッションの開催、合宿形式の「村研大会」のスタイルは叶いませんが、「日韓ワークショップ」や恒例の懇親会等、活発な議論の場を用意してお待ちしております。

【大会概要】

- ◆期日:2026年12月4日(金)、5日(土)、6日(日)
- ◆会場:東京農業大学(世田谷キャンパス)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
- ◆宿泊:各自宿泊先の手配をお願いします。

【大会スケジュール】

- ◆12月4日(金) 日韓ワークショップ (国際センター 榎本ホール)
午後 日韓ワークショップ
終了後 理事会・各種委員会
- ◆12月5日(土) 自由報告・総会
09:30 開場
10:00-10:15 開会式 A会場(サイエンスポート8階 エアブリッジ)
10:15-12:15 自由報告 A会場・B会場・C会場
12:15-13:45 昼食(各自)
13:45-15:55 自由報告 A会場・B会場・C会場
15:55-16:10 休憩・準備
16:10-17:10 総会 A会場
17:30-19:30 懇親会(学内:レストランすずしろ)
- ◆12月6日(日) テーマセッション A会場(サイエンスポート8階 エアブリッジ)
08:30 開場
09:00-12:00 テーマセッション

12:00-13:00 昼食（各自）
 13:30-15:30 テーマセッション
 15:30-15:45 閉会式

【日韓ワークショップ】

テーマ : 人口減少時代における農山村地域の課題と対応
 本学会からの登壇者: 高村竜平会員(日本における農村地域の人口減少問題などについて)
 望月美希会員(日本における災害と農村について)

【大会参加費・懇親会費等】

	正会員	院生会員
日韓ワークショップ:参加費	無料	無料
村落研究学会大会:参加費	4,000 円	2,000 円
懇親会費(12/05)	5,000 円	3,000 円

** 非会員については、参加費 6000 円(院生非会員 2000 円)
 懇親会 5000 円(院生非会員 3000 円)

【大会申込み】

◆Microsoft Forms への情報入力および下記の口座への振込確認をもって参加受付とします。

振り込みは各自計算の上、金融機関等で行ってください。振込手数料はご負担ください。

銀行名 住信 SBI ネット銀行(*2026 年 8 月 3 日以降は「ドコモ SMTB ネット銀行」)

銀行コード 0038 支店番号 101(イチゴ支店)

口座番号 9468988

氏名 中丸 京子(ナカマル キョウコ)

(*2026 年 8 月 3 日以降は「ドコモ SMTB ネット銀行」をご指定下さい。銀行コード・支店番号・口座番号に変更はありません。)

◆Microsoft Forms への入力方法

・以下の URL にアクセスし、必要事項を入力して下さい。

<https://forms.cloud.microsoft/r/Z4hq9PCzUf>

・入力項目は、氏名、所属、会員種別(一般会員、院生会員、非会員、院生非会員)、12/5 の懇親会出欠、振込金額、メールアドレス、電話番号となります。

・申込み(Microsoft Forms への情報入力と参加費振込)の締め切りは 10 月 30 日(金)です。
なお、参加費振込以降のキャンセル・返金是对応できませんので、ご注意ください。

【受付】

日韓ワークショップに参加される方

12 月 4 日(金)に、会場(国際センター2F 榎本ホール)前にて受付を済ませてください。

日韓ワークショップに参加されない方

12 月 5 日(土) 9:30、12 月 6 日(日)8:30 よりサイエンスポート 1 階で受け付けます。

郵送の場合 : 〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学大学院 人間環境学研究院 共生社会学講座 山下亜紀子宛

また8月18(月)までに報告要旨(1200字程度)を、研究委員長(山下亜紀子)宛にメールで提出してください。難しい場合は、下記の住所に郵送で提出してください。

e-mail : yamashita.akiko.078(at)m.kyushu-u.ac.jp

または郵便にて提出して下さい。

郵送の場合 : 〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学大学院 人間環境学研究院 共生社会学講座 山下亜紀子宛

(山下亜紀子)

IV. 地区研究会開催案内・開催報告

○2026年度関西・東海地区研究会

日時 : 2026年9月16日(水)13時~16時30分

場所 : 大阪産業大学梅田サテライトキャンパス レクチャールーム A

(大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル19階)*

報告者 : 片平深雪(立命館大学)、鍋倉咲希(和歌山大学)

テーマ : 季節労働と村落——“部分”を寄せ集めた生活の可能性

趣旨文 : ポスト近代と呼ばれて久しい現代日本社会において、われわれはかつてのような経済的豊かさを感じられなくなったなかで、はたして今後も一つのメジャーな生業に頼って安定した生活を送ることができるかと問われると、どうも難しいといった見通ししかない。実はこのような状況はもうすでに農村では当たり前であり、多くのムラでは、都市よりも早く、複数の生業を組み合わせながら、自らの生活を維持してきた。

このような単一の安定した生業ではなく「部分」を寄せ集めた生活は、高度経済成長期からバブル経済までの“豊かな社会”の規準からすれば、どちらかといえばマイナーで、ネガティブに語られてきたが、今や、バブルがはじけてからの“失われた”時代が続く現代では、むしろそうした生き方をポジティブに評価する視点がもとめられているのではないだろうか。このような視点を模索すべく、今回の研究会では、具体的に「季節労働」を軸に、それを担うために移動する人びと、彼らを送り出す村、受け入れる村の三者関係に着目しながら、ムラでの「部分」を寄せ集めた生活の可能性(とその限界も含めて)について考えてみたい。

*会場の大阪産業大学梅田サテライトキャンパスは、JR大阪駅下車、徒歩10分です。

大阪駅前第3ビルの19階へは、1階から高層階用のエレベーターをご利用ください。

連絡先 川田美紀(大阪産業大学)mkawata[at]est.osaka-sandai.ac.jp

(足立重和)

○2025年度中国四国地区研究会開催報告

【日時】2025年12月13日14:00~17:00

【会場】広島県尾道市しまなみ交流館

【報告】高木泰伸(大阪大学大学院人文学研究科 招へい研究員)「宮本常一民俗学の再考—地域

調査の方法と表現をめぐって」

【参加者】対面参加 7 名、Zoom での参加 6 名

2025 年度村研中国四国地区研究会では、周防大島文化交流センター(宮本常一記念館)で長年勤められた高木泰伸氏に報告いただいた。研究会を企画された村田周祐研究委員は、2026 年度の大会テーマシンポジウム「村落研究におけるモノグラフの可能性」(仮題)を意識して、高木氏に宮本常一のモノグラフの特徴について報告を依頼されたという。宮本常一の考え方や研究に対する姿勢について、これほど一貫したお話を伺ったことはなく、学びになった。紙面の関係上、かなり筆者の関心に沿ったまとめとなってしまいが、ご容赦願いたい。

宮本民俗学の目的は、過去、現在、未来における、その地域の「暮らしを支えるものは何か」という問いを明らかにすることであるという。特に高木氏が強調していたのは、未来志向であることだ。将来の地域の暮らしを豊かにする道筋を過去、現在の地域の暮らしぶりから見通すことを、宮本は重視していた。そのためには、そこに住む人たちの本当の姿を物語る生活の「情感」を救い上げる記述の方法が必要であったのかもしれない。宮本は、人びとの生活の「情感」を削ぎ落とし、対象を客体化する科学への批判とともに、モノグラフに「情感」を取り入れることにこだわりを持つようになったという。

この「情感」をできるだけ取り入れようとするモノグラフの特徴として、文章表現へのこだわり、インフォーマントの言葉の背後にある事柄への洞察眼(オーラルヒストリーの素材となるのは言葉によってウラがとれるものだけではない)、「学問はまず自分のためのものでなければならない」という自己表現としてのモノグラフの考えなどが示されていた。自己表現としてのモノグラフの考え方は、「情感」を取り入れることとどのような結びつきがあるのかははっきりはわからないが、「何を知りたいのか、どのように伝えたいのか」を突き詰めて考えたとき、宮本の答えとしては「情感」を取り入れることにいきついたのかなと想像をした。いずれの論点も興味深かった。

高木氏は報告の終盤でも、「聞き書きは 100 年残る、理論は 10 年残らない」という言葉で、社会科学の理論を前提にした演繹法的な解釈に再検討を促されていた。個人的には印象に残っている。報告いただいた高木氏、研究会を企画された村田委員に感謝したい。

(平井勇介)

V. 『年報』の「研究動向」について

年報創刊時より掲載してきた「研究動向」について、現在、理事会および年報編集委員会において検討を始めました。その経緯と現状、今後についての状況説明をいたします。

2026 年 1 月の第 2 回理事会で、年報編集委員会から、2026 年度刊行予定の『年報 村落社会研究』第 62 集から「研究動向」掲載廃止をしてはどうか、という提案がなされました。「研究動向」は、長年にわたり村落研究の広がりやその動向を共有する役割を担ってきましたが、近年の研究環境や学会を取り巻く状況の変化、継続的に執筆を担う体制を維持することが容易ではない現状なども踏まえ、あらためてそのあり方を整理する必要があるとの認識に基づくものでした。

理事会では、現状認識の共有と共に様々な意見が出され、たいへん大きな問題であるからもう少し時間をかけて丁寧に検討を進めた方が良い、ということで、4 月理事会までに理事はこの件についての意見を書き込み、共有することとなりました。なお、62 集については、執筆者の確保にあたって一定の調整を要しましたが、関係者のご協力により「研究動向」執筆者も確保でき、入稿を待っているところです。

4月理事会では書き込まれた意見をふまえると共に、会員にも状況説明を行う必要があることから、6月発信予定の「村研通信」に会長・年報編集委員長名での状況説明の文章を掲載することになった次第です。

4月理事会に提示された書き込みの意見は多岐にわたっており、それを整理する作業を8月の理事会に間に合うように行う予定です。今後は、これまでの経緯や意義を確認しつつ、研究動向の位置づけや役割、掲載のあり方、執筆体制などについて、複数の観点から理事会と年報編集委員会が連携して検討を進めてまいります。その過程においては、会員の皆さまのこれまでのご経験やご意見を参照させていただくことも視野に入れながら、慎重に議論を重ねる予定です。検討の進捗や対応については、適宜、研究通信等を通じて会員の皆さまにお知らせいたします。

本件につきまして、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(靄理恵子・澤野久美)

VI. 学会費納入のお願い・院生会員会費適用延長の申請について

すでに今年度の年会費をお納めいただきました皆さま、ありがとうございました。

まだお納めでない方におかれましては、なるべく早くお納めいただきますようお願い申し上げます。

村研の会計年度は毎年10月1日より翌年9月30日までとなっております。

(2026年度:2025年10月1日~2026年9月30日)

◆学会年会費:正会員 8,000円、院生会員 2,000円

◆お支払い方法

本会では2025年度会費よりクレジットカード決済を導入いたしました。

「銀行振込(バンクチェック決済)」の利用は終了しておりますので、過去にお振り込みいただいたバンクチェック決済専用口座(りそな銀行)にはお振込みされませんようお願い申し上げます。

日本村落研究学会ホームページ左上の「会員の方はこちら」からSMOOSY会員マイページにログインしていただき、請求/入金情報の中の「支払う」からクレジットカード決済をお願いいたします。

※請求書、ご入金後の領収書は「会員マイページ」よりダウンロードできます。

※クレジットカード決済が難しい場合は、以下の振替口座(ゆうちょ銀行)にお振り込みをお願いいたします。

口座番号:00150-9-387521

口座名義:日本村落研究学会

[院生会員会費適用延長の申請について]

村研通信第275号の記載の通り、2026年度分学会費から、大学院修了後に常勤職についていない「正会員」を対象に「院生会員」会費適用延長の申請を受け付けます。

申請を希望される場合は、以下のフォームをご利用ください(締切 2026年6月30日)。

<https://forms.gle/bAYirB9pP8uafDuA9>

なお、申請にあたっては、大学院の修了を証明する書類と誓約書(指定の様式)が必要です。フォームによる申請受付後、事務局から誓約書をお送りいたします。

※院生会員の方が大学院を修了された場合、会員種別は正会員への変更が必要となります。会員種別の変更については事務局までご連絡ください。

(事務局)

○令和 6 年能登半島地震において被災された会員のみなさまへ

本学会では、災害、事故などで多大な被害を受けた会員について、本人の申告に基づき、理事会の審議を経て学会費の減免措置(全額または半額)を講ずることができます。措置は原則単年度とし、必要に応じて延長できます。該当する方は事務局にお申し出ください。